市が魅力を、価値を、エネルギーを「私に」伝える情報紙
To Me 広報とめ トゥー・ミー
6 Jun 2018 Vol.277

ときめき人
Tokimeki bito

被災者から支援者へ 酒米でつながる「支縁」の輪

迫町・東表
千葉　伸一さん
ちば・しんいち
1982年生まれ　血液型／A型

酒米「イセヒカリ」から作った清酒「絆伝心」。復興を願う気持ちが「心と喉に染み入るように伝わってほしい」―。そんな願いが名前には込められている。

酒米作りを、本格的に始めたのは21歳のとき。初めは父の酒米作りにあまり興味を持てなかった。しかし、父が病気をしたことをきっかけに、跡を継ぐことを決意した。「実際に土に触れ、作業を続けていくうちに、改めて農業の楽しさを知りました。肥料の組み合わせなど、料理を作るみたいに工夫できるところがたくさんあるんです」とにっこり。もともと凝り性の伸一さんは、すぐに農業にのめり込んだ。

酒米の販売も軌道に乗ったころ、東日本大震災が発生。震災の影響で酒米の買い取りを断られる状況が続いた。「米が100袋ほど余り、今後も売れる保証がどこにもなく廃業を考えていました」と当時を振り返る。伸一さんの米が売れないのを聞き、連絡をよこしたのが佐賀県佐賀市のNPO法人「地球市民の会」。地球市民の会は、風評被害を受けた米を買い取り、日本酒を生産販売した。「遠く九州からの支援に驚きました。本当にありがたかった。そんな矢先、2016年に熊本地震が起きたんです。あの時の恩返しをしたいと思っていましたので」と被災地に日本酒約千本分の酒米を寄贈した。「災害で失ったものもたくさんありますが、新しいつながりもできました。遠く離れていても、協力しながら酒米を作っていきたい」。

支援者に助けられた縁から、被災者を助ける縁へ。めぐり合わせでつながった支援は、お互いを支え合う絆となった。喉に染み入る日本酒のように、彼の「支縁」の輪はこれからも広がっていく。

編集後記

▼今月号から本格的に編集作業に携わり、認定こども園と防災の記事を担当しました。感じたことは、現地に取材に行くことの大切さ。新しい「出会い」と「気付き」がありました。これからも、現地に足を運んで取材し、目に見えない思いや背景を皆さんに伝えられるように頑張ります。（高橋）

▼取材に行くとさまざまな人との出会いがあります。取材させていただいた人の雰囲気、性格や考え方などが自分と違うことがとても新鮮で、勉強になります。また、それを分かりやすく正確に伝える難しさを痛感。日々学ぶ姿勢を持って取り組んでいきたいと思います。（三浦）

▼むし歯のない子の撮影に行ってきました。子どもたちの一瞬を撮り逃さないように、夢中でシャッターを切りました。同僚からは、撮りすぎると選ぶのが大変そうと言われますが、たくさん撮った写真から一枚を選ぶ作業も、楽しみながらやっています。（小野寺）

広報とめ（6月号）
発行日／平成30年5月16日　発行／登米市
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1
編集／総務部市長公室 広報広聴係　印刷／川内印刷株式会社
TEL.0220-22-2090　FAX.0220-22-9164
E-mail koho@city.tome.miyagi.jp

登米市メール配信サービス
（防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。）
https://mail.cous.jp/tomecity/